

# 支所だより

各総合支所管内での身近な出来事や話題などを毎月お知らせするコーナーです。今月は丹原総合支所から「古田の大火と防火用の堀」について紹介します。

丹原総合支所

〒791-0592 丹原町池田1733番地 1

TEL0898-68-7300

FAX0898-68-4769



▲今ではその数も少なくなった200年前の姿で残る堀

災害への備えの大切さを今に伝える

## 古田の大火と防火用の堀

丹原地区の北西、紅葉で有名な西山興隆寺のふもとに、古田集落があります。この集落では、今から約200年前の大火災を契機に、そのころ

としては画期的な区画整理事業による、防災に着目したまちづくりがなされました。住民の安全・安心の確保に向けた、先人による大英断と努力の歴史を振り返ります。

### 二百年前の大火災

江戸時代末期の文化2（1805）年、傾斜地にある古田集落で発生した大火災では母屋86戸、付属家を合わせて130余棟を全焼。さらに、当時の農作業には欠くことのできない牛14頭を失うなど、地区の3分の2以上を消失する大変な惨事となりました。

### 災害に備えた復旧

地区の庄屋であった四代目芥川源吾為宣は、死を決して藩庁に懇願するなどして、防

災設備が整った地区の復旧に乗り出します。

まず、集落内を東西に走る幅8尺（約2・4メートル）の、3本の幹線道路をつくり、その道路に沿って水路も掘削しました。この三筋の道路は、北から「北丁」「中丁」と、そして一番南の筋は、海側が「本丁」、山側が「上丁」と呼ばれました。

また、集落の山手に、「上池」と「蓮池」という二つのため池を築造し、さらに各戸の入口にも1坪くらいの堀（小池）を作りました。ため池の水は、新たに設けられた水路によって各戸の堀に供され、平時には日常生活として利用され、防火用水として利用されることとなったのです。

そして、集落の守護のために三筋の道路には、それぞれ一基ずつ地藏菩薩石像が据えられました。このお地藏様は今も地区の方によって祭られています。

当時の西山興隆寺院家光幢

現在の古田の街並み



上人も、寺院所有のヒノキやスギなど301本を提供し、家屋の復旧を支援したと伝えられています。当時の材木を棟木とした茅葺の家屋は、昭和30年ころまで存在していたとのこと。

### 今に伝わる先人の思い

ため池と各戸をつなぐ当時の水路には、現在も常時水が流れています。しかし、上水道や消火栓の整備が進むとともに、自家用車が各戸に普及し始めると、水路や堀の存在が通行の障害となってきました。そうした時代の変遷により、やがて水路にはふたがされ、次第に堀も取り壊されて、現在では昔の面影は薄れつつ

ありますが、古田集落の人々は、今でも先人たちの努力を伝承しています。

その後、関西に移転した芥川家の追善供養を引き続き執行しているだけでなく、平成16年には古田会堂前に「古田大火災二百年忌」の供養碑を建立し、災害に備えた先人の偉業をたたえているのです。



▲先人の思いが今も伝わる供養碑